

探究のAI利用ルーブリックと確認記録表

といのタネ

課題名: _____ 学年・組: _____

記入者: _____ 記入日: _____

この表は、文部科学省「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン Ver.2.0」の20ページ Box-6をもとに作っています。評価への反映方法は、学校の評価規準に沿って決めてください。

ステップ1 この課題でAIを使ってよい工程を決める

ここでは、課題を出す前に教員が工程ごとに印を付けます。学校と教育委員会の方針の範囲で決めます。

工程	使ってよい	使わない	条件・メモ
問いの磨き込み			
調査の観点の補充			
資料の要約			
本文の推敲			
スライドの構成			

生徒に伝える日: _____

使ってよいサービス名: _____

ステップ2 4観点のルーブリックを課題と同時に配る

ここでは、評価の視点を生徒に先に示します。3が最も高い段階です。

観点	3	2	1
A 使用の明記	ツール名・プロンプト・日付・用途が、使った回ごとに記録されている	日付かプロンプトが欠けた回がある	記録がない、または使った箇所が分からない
B 出力の採否の判断	採用した部分と捨てた部分の両方に理由がある	採用した部分は分かるが理由がない	出力がほぼそのまま本文に入っている
C 裏取り	出力に含まれる事実を一次資料で確かめ、資料名を書いている	一部の事実で裏取りしている	裏取りの記録がない
D 自分の言葉での説明	口頭の質問に、資料と自分の調査を根拠に答えられる	答えられるが、記録の文を繰り返す	AIを使った工程を説明できない

AIを使わなかった生徒は、観点AからCを対象外にし、観点Dのみで確かめます。

ステップ3 生徒が書く使用記録欄

ここでは、生徒がAIを使った回ごとに1行ずつ書きます。氏名や友人の名前はプロンプトに入れません。

回	日付	ツール名	入力したプロンプトの要旨	採用した部分	捨てた部分と理由	裏取りした資料
1						
2						
3						

AIを使わなかった場合は「使っていない」と書く: _____

ステップ4 提出時の突き合わせ

ここでは、教員が記録と本文を見比べ、口頭で聞く点を1人2つまで決めます。

確かめる点	はい	いいえ	口頭で聞くこと
記録に日付・ツール名・プロンプトがある			
記録の採用部分が本文のどこか分かる			
裏取りした資料名が本文か参考文献にある			
本文に生徒自身の調査や取材の材料がある			

ステップ5 口頭確認の記録

ここでは、3つの質問と答えの要点を書き、観点Dの段階を教員が付けます。3つ目は全員共通の質問です。

質問	答えの要点	観点Dの段階
1		
2		
3 AIの出力で捨てた部分と、その理由を教えてください		

記入例

ステップ3の記入例を1行示します。

回	日付	ツール名	入力したプロンプトの要旨	採用した部分	捨てた部分と理由	裏取りした資料
1	10月14日	学校が認めたチャットAI	自分の問いに足りない観点を、質問の形で3つ返してもらった	2つ目の「対象の年齢層」の観点	1つ目は調査の範囲外なので捨てた	市が公開している統計書の該当表

この行なら、観点Aは3、観点Bは3、観点Cは3の候補になります。段階は口頭確認の答えと合わせて決めます。

学年会で決めること

ここでは、評価への反映方法を学年で決めて書き残します。

観点AからDの重み: ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

段階1が付いた場合の扱い: ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

記録と本文が食い違ったときの確認の流れ: ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

決めた日と出席者: ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿